



女性の経済的な機会の向上のために私達にできること

クリスティーヌ・ラガルド

2013年3月8日

本日私は、皆さんと共に「国際女性デー」を祝いたいと思います。これまで数十年間で、女性は、私達の祖母が願い夢に見たように経済社会で重要な役割を果たすようになるなど、社会の様々な面で大きく前進してきました。現在、大半の職業のエグゼクティブレベルでは、依然として男性が優位な立場にあります。民間セクターや官公庁で女性が高い地位を占めるケースが世界中で見られるようになりました。女性はもはや、シモーヌ・ド・ボーヴォワールがかつて述べたような「第二の性」ではないのです。

一方で、余りにも多くの女性が、安全の権利や自らが望む人生を選択する権利といった、最も基本的な面で問題に直面していることも事実です。

世界レベルで見て、男性と比較し有給雇用に就いている女性は少なく、女性の生産年齢人口で労働に参加している割合は僅か50%程度となっています。依然として多くの国で、法律、規制、そして社会規範が、女性が有給の仕事を求める妨げになっています。そして世界では、家庭の内外で目に付かない無給の仕事の大半を女性がこなしています。

男性と同じ仕事をしていても女性が手にする賃金は少なく、これをエコノミストは男女間の賃金格差と呼んでいます。経済協力開発機構（OECD）に加盟する先進国と新興市場国の場合、男女間の賃金格差は約16%です。多くの女性が子供や高齢者の世話をするために休職したりパートタイムで働くことから、年金受給額が少なくなっています。これ自身も問題でありまた公的財政にも影響します。さらに多くの場合、いわゆる「世帯主の配偶者」の所得に課せられる税金はより高く、女性の就労意欲の減退につながっています。

経済危機により状況は複雑になりました。途上国では、女子生徒の教育の修了率は男子生徒より急速に低下しました。先進国では、ポルトガルやスペインで見られるように、女性の失業率が上昇しています。もし、こうしたトレンドが危機以降も続くならば、女性の労働市場参加に一層の支障をもたらすことになるかもしれません。

This iMFDirect post: <http://blog-imfdirect.imf.org/2013/03/07/what-we-can-do-to-improve-womens-economic-opportunities/>

iMFDirect blog home: <http://blog-imfdirect.imf.org/>

女性は才能に溢れています。女性に平等な機会を準備しない雇用者は、技術を備えた労働力の大きな部分を無視していることとなります。多くの国で、有給雇用に就く女性が増えることにより、はるかに高い成長率が実現する可能性があります。例えば日本では、女性の労働参加率を北欧並に引き上げることで、一人当たりのGDPを恒久的に8%押し上げる可能性があります。女性は、起業家としての高い潜在能力も秘めています。例えば、新興市場では、フォーマルな中小企業の30~40%を女性が経営する企業が占めています。以上に加え、女性は子供の福祉に自らの所得をより多く割り振る傾向にあるとした研究もあるように、女性の所得を引き上げることで教育水準の上昇も期待できます。

そのためには様々な面での変化が不可欠です。ここでは変革への第一歩となるいくつかの例についてお話ししましょう。

政治家は、女性に平等な機会を提供し、女性が自ら資産を持ち信用を得て家の外で働くことができるよう法律を変えることができます。保健サービス、教育、職業訓練への平等なアクセスを確保することで、女性が有給雇用に就く環境が整えられるでしょう。また、インフラ、交通、そして育児制度の改善により、より多くの女性が有給雇用を求めることができるようになるでしょう。例えば南アフリカの郊外では、電気へのアクセスが確保されたことで、家庭内での労働が減り外で働く機会が増え、女性の労働参加率が約9%上昇しました。メキシコでは、働く母親のための連邦政府による保育プログラムが、所得が低い母親の助けとなりました。

先進国では、育児休暇や手ごろな育児システムへのアクセスが実現すれば、より多くの女性が働くことになるでしょう。男女間の労働参加率の差が僅か6パーセントポイントであるスウェーデンは良い例です（日本では25パーセントポイント）。パートタイムとフルタイムの雇用契約の間の垣根を取り払うことも、女性の労働力への参加を促すこととなります。例えば、オランダでは女性の労働参加率が、1980年の約35%から2008年には80%超となりましたが、これは、パートタイムの仕事の選択肢が魅力を増したことが大きいといえます。さらに、柔軟な労働形態も、女性が多くの責任を果たし、仕事と生活のより良いバランスを実現する上で役に立ちます。

我々は支援することができます。国際通貨基金は、安定性と成長をどのように実現するか、加盟国と対話を続けています。女性の労働参加率はこの中で考えるべき要素の一つであり、多くの国が高齢化や巨額の公的債務の財政への影響に苦しんでいる時ならなおさらです。中小企業の融資へのアクセスもまた重要な問題です。我々は、この分野で様々な影響を及ぼしている全ての複雑な要素の専門家ではありませんが、問題

This IMFdirect post: <http://blog-imfdirect.imf.org/2013/03/07/what-we-can-do-to-improve-womens-economic-opportunities/>

IMFdirect blog home: <http://blog-imfdirect.imf.org/>

への注意を促し他者の専門知識を活用することができます。さらに、我々は、財政に関する専門知識を動員し、税制や公的資源の配分の男女平等や女性の機会向上への貢献を評価するための手法を検証することができます。

「国際女性デー」である今日、これまでの目覚しい歩みとともに非常に難しい問題についても考えました。しかし、私は楽観主義者です。こういった問題を越えた向こう側には、私達の娘や孫娘が今日の女性より一層恵まれた機会を手にすることができる世界があると考えています。そして、女性がその可能性をフルに発揮できるということは、女性だけではなく世界全体のプラスになるのだということを、常に心に留めておきましょう。